



今年度、本校では「志を持ち 自ら学び 良さを伸ばし合う生徒」の育成を学校教育目標に掲げ、明日も来くなる丸塚中学校 ～誰もが安心して学ぶことができる居心地の良い学校～ を目指す学校像とし、【信・義・愛】を合言葉に日々の教育活動を行ってまいりました。このことについて、教育活動の成果が生徒の姿としてどの程度表れているのかを検証するため、生徒・保護者を対象としてアンケートを実施しました。回答への御協力、ありがとうございました。結果を検証し、改善点をもとに来年度の教育活動に生かしてまいります。

1 生徒へのアンケート結果より

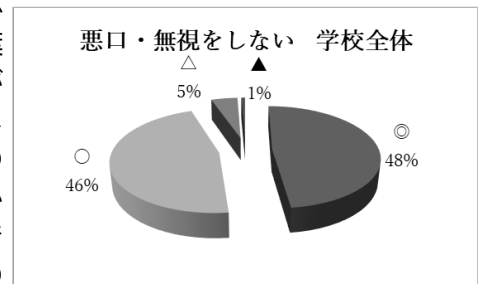
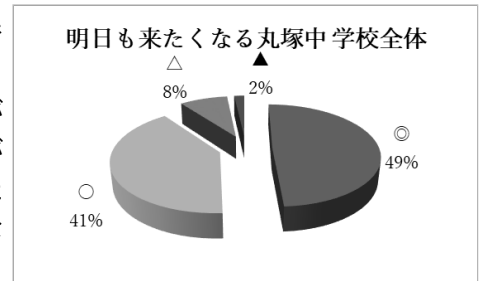
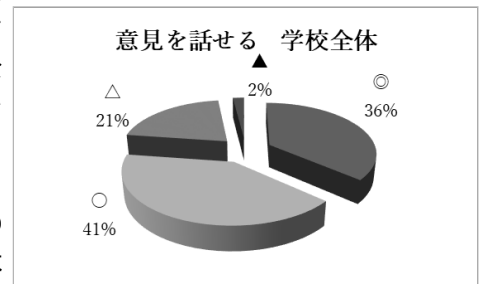
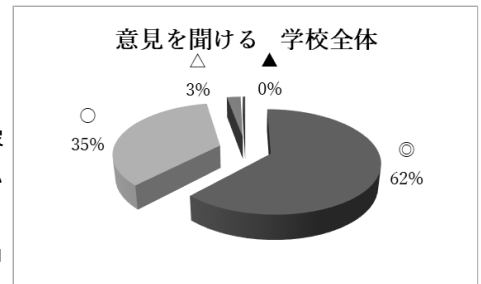
「各教科の授業の内容がよく分かる」の項目では、どの教科の集計を見ても、「そう思う・大体そう思う」の割合が8割以上に達しており、各教科の授業内容の理解度が進んでいると考えます。2学期以降、学習内容が難しくなり、やや数値が下がっている教科もありますが、先生方がわかりやすい授業を心掛けているため8割以上になっていると思われます。

今年度、人間関係作りを意識した授業づくりを実践しました。授業の中で「対話的な学習」を行うことで、「意見を聞く」項目は1学期の96%から2学期は97%になっています。他人の意見から自分の考えを深めている表れだと思われます。「自分の意見をしっかり話せる」項目はなかなか伸びていないのが現状です。生徒が自分の考えや思いを素直に表現できることを今後の課題としていきたいと考えています。

「教科を学ぶ意義を知り、めあてを持って授業に臨んでいる」の「そう思う・大体そう思う」の割合は、87%になりました。また、「1時間の授業の中で、身に付ける大切な内容の確認ができる授業になっている」は92%に達しています。「明日も来なくなる丸塚中」では、昨年度は42%の生徒が「そう思う」になっており、本年度も49%と増えているので安心・安全で魅力のある学校になってきているのではないかと思います。

「登校する目的」では、特に「友達」の項目で昨年度は90%でしたが今年度は95%を示し、「部活動」を大きく上回り、友達との人間関係が良好であることが分かります。友達と積極的に関わったり、仲間を認めたりする数値も高いので、「学習」と「友達」の充実度が「明日も来なくなる丸塚中」につながっているとさえそうです。

今年度はいじめ防止基本方針をもとに、教職員がいじめ防止や初期対応について意識してきた結果、「他者を思いやる気持ちがあり、それを言葉や行動で表すことができる」の項目の「そう思う・大体そう思う」が8割を超え、「自他の命の大切さを知っていて、悪口を言ったり、無視したり、仲間はずれをしたりしていない」は、9割を超えました。いじめの少ない安心できる丸塚中になってきているという結果だと思えます。しかし、この項目でも「言葉や行動で表す」ことが、やや低いので生徒同士でも表現できる力を身に付けることが今後の課題になります。そして、この課題解決がより良い人間関係につながり、いじめ防止の最善策になると考えます。

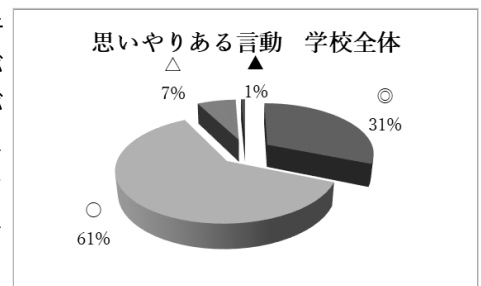


2 保護者へのアンケート結果より

どの項目においても、全体的には昨年度よりも数値が高くなっています。「積極的に取り組む」「あきらめない」の数値が昨年度同様にやや低くなっており、この項目の改善が家庭から求められている部分であり、生徒のアンケートと同様に指導が必要であると感じています。特に数値の向上が見られたのは「生徒中心の学校行事」の項目であり、『体育大会・学芸発表会』での姿を目にすることで良い結果につながったのだと考えられます。

「中学1年で、体育大会・合唱コンクールも、初体験でしたが生徒が作る行事という感じでとても良かったし先生方も楽しんでいるのが見ていて楽しかった！丸中でよかった！」「挨拶が素晴らしい学校だと思います。訪校する度に、気持ちのよい挨拶をしてもらって爽やかな気持ちになります。」などの好意的な意見が多く見られとてもうれしく思います。

保護者アンケートでの「他者を思いやる気持ちがあり、それを言葉や行動で表すことができている」は、「そう思う」「大体そう思う」の割合が92%に達し、生徒の数値よりも高いことがわかります。これは、子供が学校での楽しかったことやうれしかったことを含めた様子を保護者に話している表れだと考えます。辛い思いをしたり、傷ついたりすることは起きてしまいますが、保護者への報告や連絡、相談を密に行い、子供が安心して学校に登校できるように今後も連携を深めていきたいと思ひます。



3 課題

昨年度の課題として挙げられた「自分には、いいところがあると思う」という自己肯定感は、昨年度よりも今年度、1学期よりも2学期と数値が良くなっています。少しずつではありますが良くなっているため、今年度の取組を続けていこうと思ひます。「自分の意見をしっかりと話すことができる」や「他者を思いやる気持ちがあり、それを言葉や行動で表すことができている」という質問がなかなか伸びていません。自分の考えや思いを言葉や行動で表すことが苦手な生徒が多いことで人間関係を崩してしまったり、すれ違いを起こしてしまったりしています。結果、それがいじめにつながるような被害を生んでしまいます。今後も積極的に自分の意見を発信できる生徒を育て、自分の意見に自信を持てるよう指導をしていきたいと考えています。生徒同士の仲が良く、先生方とも相談しやすい雰囲気ができているので、自分の意見を話すことができ、思いやりの気持ちを言葉や行動で表せるよう指導を心がけたいと思ひます。

4 改善策

授業や休み時間で生徒同士がお互いを認め合える雰囲気を作るために、年度初めに「安心して暮らせるクラスになるための3箇条」を各学級で考えます。学級目標及び、3箇条を達成させるための具体的な方法を学級で話し合い、検討します。また、「学級運営委員会」や「生徒議会」を年間計画に位置付けることでリーダーやそれをフォローする生徒の育成を図り、ボトムアップで意見を吸い上げるような仕組みを年間通して行うようにします。学級運営委員会では、学級での様子を確認し、生徒同士で学級を良くしていく自浄作用をつくりあげていきたいと思ひています。そして、それがいじめ撲滅につながっていくはずです。

現在行っている「こころの日」や「こころパワーアッププロジェクト」を継続して行うことで、さらに人間関係作りの強化を図っていきたくて考えています。自分の意見を発言でき、思いやりのある生徒を育てるための実践を継続します。体育大会や学芸発表会などの行事の時、目標を立て、学級で協力する雰囲気はできているので目標を達成させるために自分の気持ちを伝えられるような指導を心がけ、たとえ目標が達成できなかったとしても努力する過程が大切であることを学級で伝える機会を作ります。

3年間の見通しを持って自分の意見を自分の言葉で伝えられるような授業実践、思いやりの心を言葉や行動で示すことができる取組を進めていきます。

5 学校運営協議会での御意見と今後の取組

生徒・保護者アンケートに基づいた自己評価について、2月20日(火)に行った学校運営協議会において、委員の皆様から多くの御意見をいただきました。

- ・発達支援級での「こころパワーアッププロジェクト」の取組やいじめ対応について心配している。
- ・いじめは悪いことだと理解している子も増え、減少していると思う。ただ、突然いじめが起こるのではなく、いじめになる道筋があると思うので、教員が上手に間に入って関わっていくことが今後の課題だと思う。
- ・相手にどう思われるか不安になって、言いたいことが言えない子がいると思う。どんな人にも良いところと悪いところがあって当たり前と、受け入れる指導をしてほしい。
- ・いじめは、暴力・無視・SNSと形を変え、人間である以上、種は消えない。言いたいことを恐れずに言える関係や、言えない子に対しての周りの子が察することができる関係をつくるのが大切。
- ・子供から道徳の授業でディベートをして、友達が思ってもみなかった素晴らしい考えを持っていて新しい発見があったと聞いたことがある。授業も形を変え、話し合う場が増えて良いと思う。
- ・学校評価アンケートを可視化することで客観的に把握できる。

これらの御意見を受け、自分の考えを自信を持って伝えられる授業や学級活動の場面を意図的に設定していきたくて思ひます。表現する力を育てることが、昨年度の課題でもあった自己肯定感の高まりにも自然とつながるはずです。また、いじめ防止に関わる取組については、いじめをなくすことは簡単ではないものの、生徒たちが物事を前向きに受け止めたり、考えたりできるように、対話のある授業を積極的に行い、より良い人間関係を構築できるような指導を心掛けていきます。今後も職員間で人間関係作りを意識した授業づくりの研修を積み、誰もが「明日も来なくなる丸塚中」だと言えるような学校づくりを進めていきます。